

教科等研究会（中学校社会科部会）

令和4年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探求
～社会的な見方・考え方を働かせる「問い」を通して～

2 研究経過

期日	活動内容	活動場所	人数
6月6日	第1回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 本年度研究テーマ協議、研究組織づくり等	益城町立 木山中学校	21名
8月3日	第2回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 夏季地域巡検 ・熊本国際空港株式会社	/	21名
10月28日	第3回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 研究授業および授業研究会（分散開催）		
	【地理的分野】2年生「中国・四国地方」 授業者：益城町立木山中学校 宮崎 翼 教諭	益城町立 木山中学校	11名
	【公民的分野】3年生「消費生活と経済活動」 授業者：御船町立御船中学校 矢野 貴大 講師	御船町立 御船中学校	10名
1月26日	第4回上益城郡教科等研究会中学校社会科部会（半日） 実践交流会（ワークショップ）、今年度反省	益城町立 木山中学校	21名

3 研究の概要

(1) 研究の内容

県社研の研究テーマと同じ「民主主義の担い手に必要な資質・能力を育む社会科の探求 ～社会的な見方・考え方を働かせる『問い』を通して～」のもと、「単元を通じた課題設定」や「見方・考え方を働かせるための問いの工夫」を実践の柱として研究に取り組んだ。

昨年度から中学校では新学習指導要領が全面施行され、3観点での評価や学習構想案の作成など試行錯誤しながら実践する日々が続いている。そこで、本部会では「単元を通じた課題設定」や「見方・考え方を働かせるための問いの工夫」について各会員が授業実践し、年度末に実践交流する研修計画を立てた。一人一人が実践することで、新学習指導要領への理解が深まり、新学習指導要領に則った授業づくりができるようになってきたためである。また、若手、中堅、ベテランの教員がそれぞれの実践を持ち寄り、意見交換することで、互いに刺激し合いの授業に役立てることができると考え研究を進めた。

(2) 成果と課題（○成果 ●課題）

- 地理・公民の2部会に分かれて、研究テーマを意識して議論し合う中で、構想案の検討や研究授業の実践ができた。
- 若手、中堅、ベテランの教員がそれぞれの実践を持ち寄り、意見交換することで、互いの悩みや好事例を紹介し合い、その後の授業実践に役立てることができた。
- 熊本空港を視察し、建て替え工事の様子や建設後の空港が果たす役割などを学んだことで、授業づくりに生かすとともに、社会科教員としての見識を高めることができた。
- 部会の分け方や年間の研修計画の方向性について、また、研究授業の実施時期や回数について部員から意見が出た。来年度も、感染症の状況を見極めながら、部員にとって学びのある研究になるように計画・実施していきたい。

4 実践事例

(1) 研究授業および授業研究会の概要

① 地理的分野

2年生「中国・四国地方～交通・通信とともに変化する人々の暮らし～」
授業者：木山中学校 宮崎 翼 教諭

単元を通して、「中国・四国地方の自然環境や人口、交通網はどんな役割を担っているだろうか。」という課題を設定し、中国・四国地方の特色や地域内のつながりを多面的・多角的に考察することを目標に授業づくりをした。実際の授業では、本州四国連絡橋の建設によって中国・四国地方の人々の生活が「良くなった（肯定派）」と「悪くなった（否定派）」に分かれて討論を行った。討論では、通勤・通学、買い物などの利便性、農産物の出荷、地域産業の衰退、人口の流出などの様々な面から、生徒が意見を出し合った。

授業研究会では、ICT機器を用いて資料を配付・表示したりしたことや、資料づくり（探し）、話し合いの様子について良かったという意見が出された。話し合いの形態については、教師が2つにグループを編成するやり方もあるが、自分が選んだ意見でグループ分けをするやり方もあるのではないかという意見が出され、グループ学習の在り方について議論した。



〔ICT機器の活用〕



〔生徒が2グループに分かれて討論している様子〕



② 公民的分野

3年生「消費生活と経済活動」
授業者：御船中学校 矢野貴大 講師

今回は、実践事例の少ない3年生公民的分野の経済の研究授業を公開していただいた。単元を通して、「私たちの生活と経済との関わりから、国民生活の基盤となっている消費者の経済活動を支えるものは何だろうか。」という課題を設定し、生徒が消費者として財やサービスを賢く選択できることを目標に授業づくりをした。

実際の授業では、3年生で進路に関心がある状況をふまえ、高校選択を消費生活と結びつけて、各高校の特色（学科、部活動、施設など）を提供される財やサービスに見立てて生徒に示した。その後、生徒がどの高校をどんな理由で選んだのかを議論し合う活動を行った。

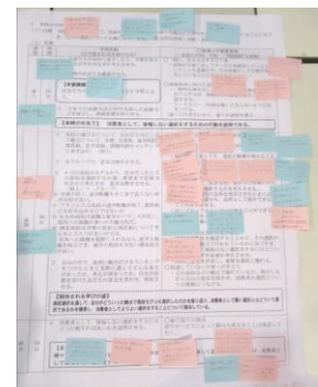
授業後の研究会では、授業者がどこに時間を使いたいのかが明確で、無駄な時間を省いているところが良かったという意見が出た。社会科の授業が進路学習になってしまわないように、どの程度の客観的な題材を用いるべきかについては意見が分かれ議論した。



〔授業の終末場面〕



〔授業研究会の様子〕



〔研究会での議論の様子〕

(2) 学習構想案 ※地理的分野 宮崎教諭の構想案より抜粋

単元名	中国・四国地方 ～交通・通信とともに変化する人々の暮らし～		
単元の目標	<p>(1)中国・四国地方に暮らす人々の生活や地域内の結びつき、課題をもとに、中国・四国地方の地域的特色を理解することができる。</p> <p>(2)中国・四国地方で見られる課題やそのほかの事象について、地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して多面的・多角的に考察し、表現できる。</p> <p>(3)主体的に学習課題を追求し、中国・四国地方の人々の生活や課題の起こる理由について、交通・通信網と関連付けて、考えようとする態度を養う。</p>		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>① 中国・四国地方の地域的特色や課題を理解している。</p> <p>② 中国・四国地方の人々の生活や地域内の結びつきと地域的特色を関連付けて理解している。</p>	<p>① 交通・通信網の発達によって生じた地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生じる課題と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現しようとしている。</p>	<p>① 中国・四国地方の地域的特色や人々の生活や課題に着目し、交通・通信網と関連付け、それらの起こる理由について主体的に考え、伝えようとしている。</p>
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
中国・四国地方の地域的特色や交通・通信網の役割を理解し、身近な地域に目を向け、中国・四国地方と身近な地域の課題と関連付けて、自分の考えを表現できる生徒。			
単元を通じた学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
四国地方の中で交通・通信網はどんな役割を担っているだろうか。		中国・四国地方の地域的特色や地域内の結びつきに着目して、中国・四国地方の交通・通信網について多面的・多角的に考察する。	
指導計画と評価計画（5時間取扱い 本時2 / 5）			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
課題発見	1	○中国・四国地方の自然環境や人口、交通網の整備など地域的特色について知る。	<p>★【態一①】（方法：発言、ノート） 中国・四国地方の自然環境等について意欲的に考察しようとしている。</p> <p>【知一①】（方法：発言、ノート）</p>
課題追及・課題解決	3	<p>○交通網が整備されたことで人々の生活がどのように変化したのかを考える。【本時】</p> <p>○交通網が整備されたことで生じた課題に対してどのような対策が行われているか考える。</p> <p>○地形と交通網、産業の関係について知る。</p>	<p>★【思一①】（方法：発言、観察、ノート） 交通網の整備について多面的・多角的に考察し、説明している。</p> <p>★【思一②】（方法：観察、ノート） 中国・四国地方の課題について、その対策についての取り組みについて考察している。</p> <p>【知一②】（方法：観察、ノート） 地形と交通、産業などが密接に関わりあっていることを知る。</p>
新たな課題	1	○中国・四国地方の中で交通・通信網がどのような役割を担っているのかを考え、身近な地域（熊本県内）で似たような地域がないか考える。	<p>★【思一②】（方法：発言、ロイロノート） 学習したことを踏まえて、中国・四国地方の中で交通・通信網がどのような役割を担っているかを自分の言葉で説明している。</p> <p>【態一②】（方法：発言、観察） 身近な地域に同じような課題がないか主体的に考えようとしている。</p>

○本時の学習

- ・目標 本州四国連絡橋の建設によって中国・四国地方の人々の暮らしはより良くなったのか、悪くなったのかを多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明できる。
- ・展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	<p>1 学習の振り返りと本時のめあてをつかむ。</p> <p>① 中国・四国地方の自然環境や人口など地域的特色を振り返る (5問テスト)</p> <p>② 本州四国連絡橋の場所を確認し、本州四国連絡橋の建設によって人々の生活がどのように変化したのか疑問をもたせる。</p>	<p>○前時までの学習を5問テストで振り返り、中国・四国地方の地域的特色を再確認する。</p> <p>○本州四国連絡橋の建設以前までの人々の生活を伝えることで、生活の変化をイメージしやすいようにする。</p>
		<p>【めあて】本州四国連絡橋の建設によって中国・四国地方の人々の生活はどのように変化したのか説明できる</p>	
		<p>【学習課題】 本州四国連絡橋の建設で人々の暮らしは良くなった？悪くなった？</p>	<p>(課題解決に向けた見通しを持つ手立て)</p> <p>○解答例を提示することで見通しをもたせる。</p>
展開	35分	<p>2 本時の学習課題に取り組む。</p> <p>① 資料をもとに班ごとに良くなった点・悪くなった点を考える。 ◇移動時間が短縮されているから通勤通学をする人は良くなった。 小売業の販売額は減っているからそこで働いている人たちは悪くなった。</p> <p>② 学級全体で良くなった点と悪くなった点を討論する。 ◇移動時間が短縮されたことで、通勤や通学がしやすくなったため、人々の生活はより良くなったと考えます。 ◇交通が便利になったことで、野菜などを新鮮なまま大都市に出荷できるようになったので、人々の生活はより良くなった。 ◇気軽に本州に買い物などに行けるようになったことで、四国の第三次産業は衰退してしまっただけで、人々の生活は悪くなったと考えます。 ◇商業が衰退したこともあり、人口が大都市に流れ、四国の農村部や島では人口が減り、過疎化が進んでしまったため、人々の暮らしは悪くなった。</p>	<p>○1～4班は良くなった点、5～8班は悪くなった点を考えさせる。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て等)</p> <p>○資料を読み取るための着眼点を与え、班活動中に問い返しを行っていく。</p> <p>(言語活動の設定及び設定の意図)</p> <p>○学級の中でそれぞれの立場の意見を聞くことで、本州四国連絡橋の建設について多面的・多角的に考えることができるため。</p>
		<p>【期待される学びの姿】 反対の意見を聞き、自分の考えと比較しながら考えを深めようとしている。</p>	<p>【到達していない生徒への手立て】 ○助言を行い、良くなった点も悪くなった点もあることに気づかせる。</p>
		<p>【具体の評価規準】観点 ○様々な人の立場から本州四国連絡橋の建設が与えた影響について考え、人々の生活の変化について説明することができている。 (方法：ノート・発言)</p>	
終末	10分	<p>3 中国・四国地方の人々の暮らしがどのように変化したのか自分の言葉でまとめる。</p>	<p>○学習課題で考えたことや友達の見解を聞いたことを参考に、中国・四国地方の人々の生活の変化を書けるようにする。</p>
		<p>【まとめ】(例) 本州四国連絡橋の建設によって、人々の生活は移動時間が短くなり、便利になったが、四国の中では商業が衰退したり過疎化が進んだりした。</p>	
		<p>4 次回の授業の内容を確認する。</p>	